

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

回答数 9

公表:令和 4年 2月 28日

事業所名 キッズペランダBe

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	2	アウトドアな雰囲気です。外で広々遊べ環境があります。	児童によって1人で落ち着けるスペースはかわりませず。どう空間を活用していくのか、屋外も含め更に有効活用できるよう努めます。
	2 職員の配置数は適切である	6	3	加配できるように取り組んでいます	フィールドが広いいため、スタッフ間での連携もより機能的におこなっていきたくです。日々のミーティングも活用しながら取り組んでいます。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8	1	児童が「自分でできる」視点をもつよう心掛けています。そうすることが構造化につながっています。	力の弱い子・強い子、小さい子・大きい子といろいろな児童がいます。基本的には生活空間は低めに設定しているため、使いにくい場面も出てきます。”できる子”は”できない子”の見本となれるよう働きかけていくことも大切ですので、そういった取り組みも進めていきます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	8	1	日々の消毒や、はだしでも気持ちが良いように床の清掃を丁寧におこなっています。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	2	日々のスタッフミーティングにて確認しながら行っています。細やかな改善を繰り返しています。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9			定期的に懇談する機会を設けて、アンケートと直接との両面でご意見をいただきながら、より良い支援を目指していきます。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9		ホームページに毎月プログラムをアップしていて、ホームページへのアクセスを促す工夫をしています。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	3	外部の方の目が届くように、外部講師の方々に日々お越しいただいています。	準備検討をおこなっていきます。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9		外部研修は今年度は難しい面もありますが、「自ら学ぶ」そんな姿勢を大切に自学習を推奨しています。共に学ぶ機会を年間とおして計画だてておこなっています。	局面によっては、重度の障害児、強度行動障害児の対応が難しいと感じることもあります。スタッフ間でも話し合いをしながら質を高めていく取り組みを進めていきます。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	9		保護者からのニーズの聞き取りだけでなく、児童との関りの中から見えることなど、様々な形でアセスメントを行っています。	成長の過程の中で必要な支援も中にはあります。そういったものもしっかりと取り入れていきたいです。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	2	ツールとしては法人共通の書式を用意して取り組んでいます。	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	9		特に児童の”やりたい”気持ちを大切に考えています。様々なことに挑戦できるよう、プログラムを練っているところです。楽しみながらおこなっています。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	9		一人ひとりにあわせた支援をおこなっています。	保護者の方からの要望も取り入れながらおこなっていきます。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	9		特色として、インストラクターと相談して行っています。	チームとして多様な意見や考え方を大切にしています。スタッフ一人の尺度で行うのではなく、チームとしてかかわっていくことを目指しています。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9		毎回インストラクターと相談し、季節を感じられる物など工夫して行っています。	
16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	9		一人ひとりに合わせて、柔軟に対応しています。		

適切な支援の提供	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8	1	役割などは特にミーティング等で確認しあうようにしています。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9		ミーティングに参加できないスタッフへも紙面にて確認できるようにして、抜け漏れがないようにしています。	紙面だけでは伝わりづらい内容もあり、スタッフ間での互いの声掛けを大切にしています。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	1	日々の記録については計画立案に関して有効に活用しています。	スタッフ間での互いに指摘しあえる関係づくりも意識していきます。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	9		見直すことは、新たな気づきの場としても捉えて活用しています。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9		参画したものは、スタッフ間での情報共有をするようにしています。スタッフ間でのフィードバックをおこない、支援の現場に活かしています。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	9			様々な機関と連携することは有用だと考えています。お子さんだけでなく、お母さんも応援できるように働きかけていきたいと思っています。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	6	3		現在対象となる児童のご利用はありませんが、必要な場合は積極的に連携していきます。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	6	3		
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	2	情報提供を受け、実際の支援に活かしていきます。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8	1	情報提供を受け、実際の支援に活かしていきます。	学校との共通認識を持つことが大切です。メールでのやりとりだけでなく、そういった機会を増やしていきたいです。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	4	法人内に児童発達支援センターもあるため、連携がとりやすいです。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		9	交流する場をつくるのにイベントなど地域に向けて発信しています。	コロナ禍でのイベントの仕掛けは大変難しい現状がありますが、地域の畑での交流や新たな企業とのタイアップでの交流など企画していこうと考えています。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	8	子どもの部会の立ち上げも一昨年始まりました。今年度はコロナ禍もあり、集まり自体はありませんが機会があれば積極的に参加していきます。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9		ご家庭で連絡張を用意していただき、日々の連絡のやりとりをさせていただいています。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	5	4	支援プログラムとしてはあまり認識されていない現状があります。保護者の困りごとなどに耳を傾けながら、寄り添う形で行っていきます。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9		利用開始の契約時に丁寧な説明を心がけています。できること、できないこともありますが、基本的には相談しながら行きたい旨もお話させていただいています。	保護者に合わせたへ説明の仕方など配慮も、検討していきます。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	9			表現的に端的に、わかりやすい文言を心がけていきます。

保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9		子育てを一緒に楽しめるよう、相談など気軽にできるようにイベントなども開催しています。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	7	横のつながりを意識しています。イベントなど開催してのご案内をしています。	保護者の方のご要望に応じて対応していきたいです。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	9		迅速な対応を心がけています。苦情へと発展する前に相談のやり取りをさせていただいています。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8	1	毎月1回”お知らせプログラム”として2か月先の月予定をお届けしています。行事の報告なども掲載しています。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	9		取り扱いには十分留意しています。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9		わかりやすさへの配慮をおこなっています。絵やイラストなども活用しながら情報伝達をおこなっています。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	9		町会とも連絡を取り合い、回覧版なども活用しながら行っています。	町会ともお互い協力しあえる関係性をつくっています。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	8	1	特に感染症の時期には注意喚起をおこなっています。	スタッフ間で漏れがないように設置場所を明確に周知しておきます。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9		年2回の避難訓練を行っています。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	9		基本的にはアセスメント票に記録してスタッフには確認してもらっています。変更や追加はその都度行っています。	ミーティング等で振り返りや確認を行っていきます。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	9		該当者はいませんが、必要に応じて対応していきます。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9		事業所内でヒヤリハットの内容を情報共有しています。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9		倫理的観点も踏まえて一人ひとりがチェックする機会を設けています。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	9		身体拘束がどのようにあたるのかを十分に検討をおこないながらことあたりに考えていますが、今現在は記載にいたる児童はいません。	身体拘束について他の事業所の例などをもとに学習や確認する機会を増やしていきます。